

平成 3 1 (2019) 年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立田原西小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成 3 1 (2019) 年度「全国学力・学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 40人

② 算数 41人

5 留意事項

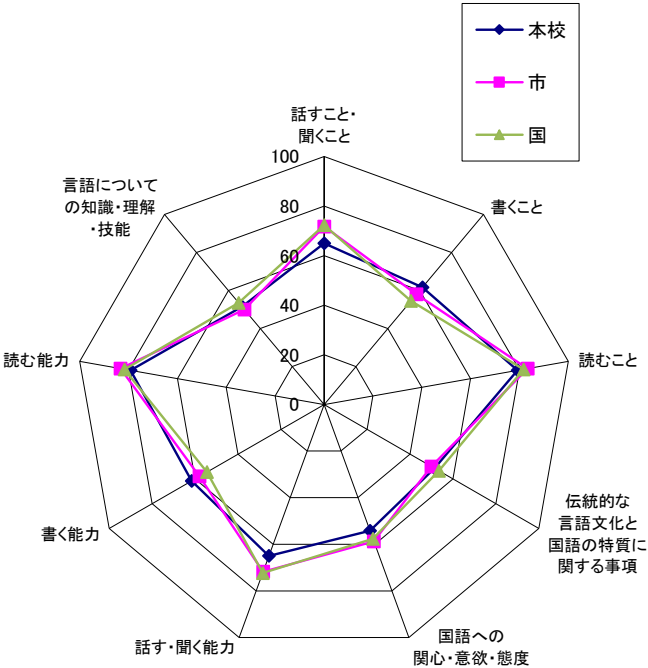
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、算数、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立田原西小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	65.0	71.8	72.3
	書くこと	61.7	58.0	54.5
	読むこと	79.2	83.3	81.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	51.5	50.0	53.5
観点	国語への関心・意欲・態度	54.2	58.7	57.6
	話す・聞く能力	65.0	71.8	72.3
	書く能力	61.7	58.0	54.5
	読む能力	79.2	83.3	81.7
	言語についての知識・理解・技能	51.5	50.0	53.5



★指導の工夫と改善

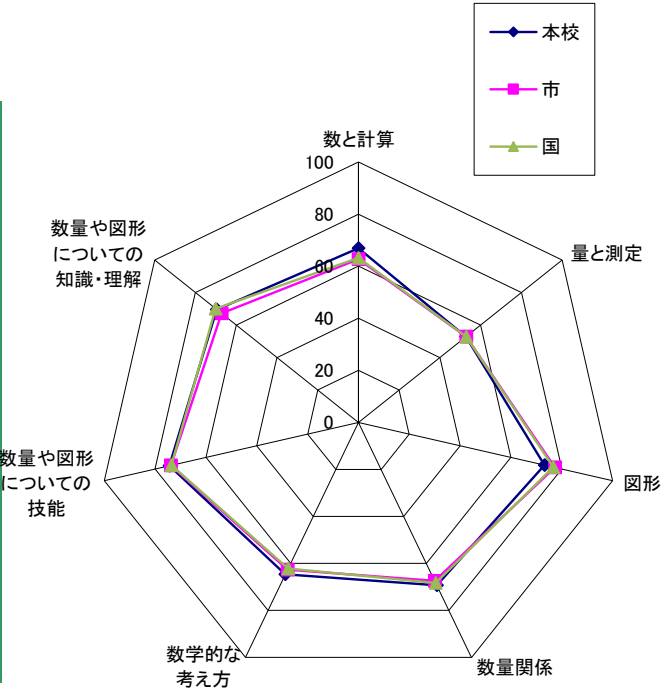
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	・学年全体としては市の平均を下回っている。 ○話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認することに関する正答率は、ほぼ市の平均と同等であった。 ●話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる問題では、無回答が27%いて、条件に合う答え方ができていない。他人の発言をまとめてふさわしい言葉づかいで話す文章を記述することが難しい。	・国語だけでなく、各教科で話し合いの活動を多くし、話し合ったことをまとめる機会を意図的に作るよう指導を行う。 ・話す相手によって、話し方やふさわしい言葉遣いがあることを日常生活の中で繰り返し指導して、常日頃から意識付けを図っていく。 ・インタビューなど他者と話す機会を大切にし、経験を積み上げていくようにする。
書くこと	・学年全体としては市の平均を上回っている。 ○図表やグラフなどを用いた目的を捉えたり、情報を分かりやすく伝えるための記述の仕方の工夫を捉えたりしてまとめる問題は県の平均を上回っている。 ●調査結果をもとにわかったことをまとめる問題では、指定された条件に従って考えを文章にすることの正答率が低い傾向にあり、題意を読み取って、指定通りに書こうとしているが、条件に合う字数や構成で書くことが難しい。	・日常生活の中で、授業の振り返りや短文などを多く取り入れ、キーワードを入れたり字数制限を設けたりして条件に合う文章を書けるように繰り返し練習させる。 ・新聞記事から必要な条件を読み取り、指定された文字数で自分の考えを表出できるように朝の学習や自主学習で意図的に経験を積みさせていく。
読むこと	・学年全体としては市の平均を下回っている。 ○ノートや本の文章を読み取り、内容を的確に押さえて自分の考えを明確にする問題では、県の正答率を上回っているものがある。 ●目的に応じて本や文章全体を読み、必要な情報を得るために適切な文を選ぶ問題は正答率が低い。文章全体を概観して効果的に読む力が必要である。	・音読を授業の中に意図的に取り入れ、言葉や文をまとまりとして全体を捉えることができるように練習をしていく。 ・説明文の段落や構成を読み取り、段落相互の関係も意識して読めるよう授業の中で丁寧に取り組んでいく。 ・いろいろな分野の本に親しむことができるよう読書の幅を広げる機会を作る。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	・学年全体としては市の平均を上回っている。 ○ことわざの意味の理解に関しては県の平均を上回っている。また、送り仮名も正しく使って漢字を書くことができる。日常の取り組みで基礎基本の力が身に付いてきている。 ●漢字の同音異義語については正答率が低い。学習したあと、使うことが少ない漢字の定着率が低い。	・国語辞典を使う機会を意図的に作り、使い方や言葉の意味が定着するようにしていく。 ・漢字については、習った漢字を使うことを徹底させたり、定期的に漢字テストで復習したり、定着するための工夫を行う。 ・同音異義語については定期的に復習したり、短文作りをしたりして意識して指導していく。

宇都宮市立田原西小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と計算	66.9	62.7	63.2
	量と測定	52.8	52.9	52.9
	図形	73.2	77.3	76.7
	数量関係	69.3	67.4	68.3
観点	算数への関心・意欲・態度			
	数学的な考え方	64.6	62.7	62.2
	数量や図形についての技能	74.4	73.8	73.6
	数量や図形についての知識・理解	69.5	67.2	70.1



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	・学年全体としては、全国平均を上回っている。 ○加法と乗法の混合した式の計算をしたり減法に関して示された計算方法を解釈し、与えられた式の計算に適応させたりする力は身に付いている。 ●除法について成り立つ性質を記述する設問や除法の式の意味を問う設問では、何を求められているのかが分からず、誤った回答をする児童が多い。また、棒グラフの読み取りの設問や日常生活の場面で、複数の数量から必要な数量を選んで立式する設問では、棒グラフから必要な情報を読み取ったり、選んだ理由を書いたりすることが苦手であった。	・日頃から、友達の考えとの共通点や相違点を示したり、自分なりの考えを述べたりすることを授業の中で繰り返し行い、基本的な学習習慣となるような指導を継続していく。 ・基本的な加減乗除の計算については、朝の学習や家庭学習等を活用して今後も継続して取り組み、基礎基本の定着を図っていく。 ・除法の問題場面では、除数と被除数の違いを明確にするために、数直線に表し、もとにするものが何か、求めるものは何かを明確にする習慣をつけていく。 ・グラフや表などの資料を読み取る活動を、算数以外の様々な教科で取り入れ、グラフや表を活用する力を身に付けさせる。
量と測定	・学年全体としては、全国平均とほぼ同等であるが、平均正答率が5割に満たないものが多い。 ●面積の求め方を言葉や数を用いて説明する設問では、数や演算の表す内容に着目して書くことができる児童が少なく、また、二つの棒グラフから資料の特徴を読み取ったり、場面の状況から単位量当たりの大きさをもとに、求め方と答えを記述する設問では、全国平均と同等ではあるが、苦手傾向にある。	・日頃の授業の中に自分の考えを書く場面を意図的に設け、記述する機会を増やしていく。 ・単位量当たりの量を求める設問では、一人当たりの感覚を養えるように具体物などを用いて指導を行っていく。また、問題場面を数直線に表し、求めるものが何かを明確にしていけることを習慣付けられるようにしていく。
図形	・学年全体としては、全国平均を下回っている。 ○図形の性質や構成要素についての設問では、正答率が9割を超え、図形に関する押さえるべき基礎は身に付いている。 ●図形の合同についての設問では、ずらしたり、重ねたり、回転させたりすることにより、対応する辺や頂点を考えることが困難であった。	・日頃から授業の中で、図形に補助線を描いたり、分かる数値を書き込んだりすることを習慣化させ、問題を解決していこうとする意欲を高めていく。 ・図形の名称や性質、内角、合同など、図形の学習の基礎となることは複数学年で学習するので、それらをまとめて復習し、性質を確実に覚えた上で、それらを活用して問題を解く経験を増やしてゆくことで定着を図る。
数量関係	・学年全体としては、全国平均をやや上回っている。 ○棒グラフから、資料の特徴や傾向を読み取る設問は、正答率が9割を超え、定着が図れている。また、伴って変わる二つの数量を見出す設問など基礎的な内容に関する理解はできている。 ●読み取った数値がもとにする数値の何倍かを求めたり、複数のグラフから分かることを適切に記述するのが苦手である。	・日頃の授業の中で、二つの数量関係を数直線に表したり、説明したりする機会を増やし、さらに定着を図る。 ・棒グラフから数値を読み取る力は定着してきたが、「～をもとにした何倍か」という見方が定着するように、基準量と比較量を文章から読み取ることを再確認し、定着を図る。 ・中学校数学科へつながる内容として、意識的に学習させるため、朝の学習や家庭学習を活用し、継続して既習事項の復習をする。

宇都宮市立田原西小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「先生は、よいところを認めてくれていると思いますか」「先生は分かるまで教えてくれていると思いますか」に対する肯定割合が県や全国の平均に比べて非常に高い。児童に寄り添い、一人一人のよい面を認め、ほめ、励まして伸ばしていきたい。

○「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」についての肯定的回答は100%。他人を思いやる気持ちや、いじめは許さないという正しい判断力が育っていると思われる。

○「将来の夢や目標を持っている」「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」「家で自分で計画を立てて勉強をしている」に肯定的回答をした児童の割合が県や全国の平均を上回っているが、個人差が多少あるため個別指導を強化していきたい。

●コンピュータなどのICTについて、5年生までに受けた授業でICTを活用した頻度が少ないと回答している児童が多く、「授業でもっとICTを活用したい」と回答している児童が90%以上いる。今後は、教科や学習内容に応じたコンピュータなどのICTを活用した学習を授業に取り入れていきたい。

●「読書は好きですか」に肯定的回答をしている児童の割合は72.7%だが、「平日読書を全くしない」と回答している児童が22.7%、「昼休みや放課後、休日に本を読んだり借りたりする」に否定的回答をしている児童が38%いる。読書量は個人差が顕著なため、今後も朝の読書タイムや読書週間以外にも読書に親しむ時間を確保したり、家庭への啓発を行ったりしていきたい。

宇都宮市立田原西小学校（第6学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・人との関わりを中心とした対話的な授業 ・書く力を高める教科横断的授業の展開	・教師の授業をコーディネートする力を高めるための研修を行っている。 ・国語の「書くこと」の領域を中心に、授業や日常生活の中に書く機会を意図的に位置付け、具体的な方法を指導している。	・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した児童の割合が、全国を約10%上回っている。 ・国語の「書くこと」の領域の平均点だが、約7点全国を上回っている。記述式問題についての正答率は、国語が全国を約3点下回っているものの、算数では約3点上回っている。 ・「国語の授業で学習したことを、普段の生活の中で、話したり聞いたり書いたり読んだりするときに活用しようとしている」と回答した児童の割合が、全国を約16%上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・「算数の授業の内容が分かる」と回答した児童の割合は、全国を約10%上回っている。 ・「国語の授業の内容が分かる」と回答した児童の割合は、全国とほぼ同等であったが、「読むこと」の領域が約3点全国を下回っている。全ての学習の基礎である読解力が身に付いていないことが、課題である。	・児童が分かる喜びを味わうことのできる授業や支援の工夫	・自分自身の到達度を実感できるよう、学習の初めに、めあてを必ず共有する。 ・学習の終末には、本時や本単元の課題に対し、まとめや振り返りを書く時間を設け、学びを言語化することで分かったことを意識させ、分かる喜びを実感させる。 ・個別の課題に対しきめ細かく支援したり、児童の取り組みに対し丁寧に反応したりし、認め励ます機会を増やす。 ・国語の学習においては、音読や速読のさせ方を工夫して与えたり、時間を掛け深く読み取らせる場を設けたりする。他教科においては、正確に読み取る必要性のある教材を提示し、児童を主体的に学ばせる授業を展開する。